

【5】 実践事例 ——共同研究——

授業づくりの実践



〔1〕 授業づくりについて

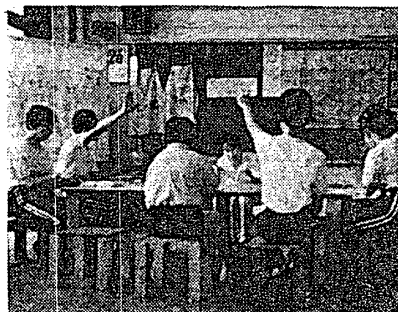
我々は日々、数知れない授業を子どもと共に創り出している。一つひとつの授業は、組み立ては一つであるが、数多くの選択肢から目的によって選択されたものであり、選択の仕方人も人によって千差万別である。それぞれの授業者が選択の意図をしっかりと持つと共に、実践を謙虚にふり返ったり、「自分だったら…」という他者の意見を参考にしながらより

良い授業を創造し、子どもたちを育てていこうとしたのがこの授業づくりである。

(1) からだづくりと授業づくり

これは、からだづくりの為の特別の授業を作るものではない。昨年度、からだづくりに視点を当てて編成した教育課程の一時間一時間を「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」が育つ授業として具現化するものであり、授業づくりをからだづくりのテーマに則して実践していくことが、結果的にからだづくりにつながるものであると考える。

昨年度も「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」を育てる授業をめざして実践してきた。しかし、「見通しを持ち、自分なりに工夫したりがんばったりできる子」にも「何をどうしたら良いのか分からず、自分から中々行動できない子」にも「楽しんで力いっぱいからだを動かす場を」を保障できたかどうかを反省した時、まだまだ力不足を感じ、今年は授業づくりの角度からからだづくりに迫ることにした。



(2) 授業づくりでめざす授業（中学部で共通理解した授業仮説）

① 楽しい授業、意欲的に取り組む授業

「今日が楽しかった、おもしろかった」と自己実現し、思いを明日へつないでいける授業であること。子どもや教師が楽しんで活動する中でこそ子どもは育つ。

もちろん教師は「この教材で、このしくみで、こんな力を」という、一人ひとりに対する思いや心づもりを持つが、それを前面に出しすぎて楽しくない授業にしてしまわない事。子どもの伸びや育ちは長いスタンスの結果みえてくるものと考え。

楽しい授業、意欲的に取り組む授業であるための配慮の例

- | | | | |
|------------|------------------|------------|-------------|
| ・題材は | ・目的意識、意欲を持たせる導入は | ・一時間の組み立ては | ・意欲を持続させるには |
| ・教材・教具の工夫は | ・援助や働きかけはどうか等 | | |

② 皆が同じ目的に向かう集団としての良さを大切にしながら、個別化をはかる授業

集団で学習に取り組む同一の課題や教材の中に、個に応じた活動を設定し、個別化の図り方、よりよい個への対応の仕方、個と集団の有機的なかわらせ方等を工夫する。助け合い、育ち合い等、集団の中でこそ子どもは育つ。集団で取り組む事の良さを最大限に大切にしながらの個別

化でありたい。

一個に応じた、個の生きる授業であるための配慮の例

- ・個を知り（発達段階に応じた留意点、評価の観点等）、個に応じて対応する。・同一教材（同一目的）の中での複数課題化。・グループ編成（異質グループと等質グループ）
- ・補助具　・教師のかかわり方　…等

(3) 授業づくりへの具体的な取り組み方法

子どもの動きに臨機応変に対応しながら記録を残すことを重点課題とし、次の事を大切にしたい。

- ① 子どもの姿とそれを引き出した手だてや要因、意欲的に取り組んだ題材、個に応じる工夫等を記録し、それを単元毎にまとめる。
- ② 教材研究や事前研究会を含めた授業研究会の充実。
- ③ お互いに忌たんのない意見やアドバイスの交換できる教師集団づくり。

以下、授業場面での子どもの様子を中心に、生活単元学習と体育（サッカー）の実践例を述べる。

〔2〕 生活単元学習による実践

(1) 遊び的労働を重視した生活単元学習の実践の概要（H. 1. 11～H. 2. 9）

次に示す表は、昨年11月から一年間、中学部で実践した「遊び的労働を重視した生活単元学習」の概要と子どもたちが意欲的に取り組んだ題材、集団の大きさ等を一覧表にしたものである。

単元	実践の概要	意欲的に取り組んだ題材と要因	集団の大きさ、種類		
			1年	2年	3年
11月 お客様を迎えよう (38時間)		<ul style="list-style-type: none"> ・うどん作り（2年） ・かりんとう作り（1年） （作ったら食べられる、喜ばれる、自分に合った課題がある、許容されるべき） ・のれん、テーブルセンター作り（1年） ・立て看板作り（2年） （大人の道具を使った造型活動、染色等遊びのある活動、目的意識） ・はし置きのおみやげ作り（3年） （粘土の楽しさ、形にこだわらない量産への挑戦、目的意識） 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 ・環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・もてなしの準備・練習 ・もてなしの準備・練習 ・おみやげ作り 	
					
2月 学習発表会 (40時間)		<ul style="list-style-type: none"> ・大道具作り（1、2、3年） （大きな材料、木工作、大人の道具使用ベンキで描くダイナミックさ、目的意識） ・劇練習（合同、パート） （パターン化したくり返しの動き、自由さも生かされる、だんだん上手になる喜び、目的意識） ・大道具のセッティング （力仕事、自分が生かされる、スピード感） 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 ・全体練習 ・パート練習 ・発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・大道具 ・大道具 ・大道具 ・衣装 ・背景画 ・小道具 	
					

単元	実践の概要	意欲的に取り組んだ題材と要因	集団の大きさ、種類		
6月 野外炊飯 (53時間)	<p>全く何もない松林の中で野外炊飯をするために、みんなで必要な道具を作ったり、好きな献立で調理練習をしたりした。当日は、作った道具を持ちより、それぞれ野外炊飯を楽しんだ。</p> 	<p>調理練習</p> <ul style="list-style-type: none">・カレーライス(1年)・クリームシチュー(2年)・カレーうどん(3年) <p>(作ったら食べられる、自分に合った課題がある)</p> <ul style="list-style-type: none">・テーブル・いす作り(1・2)・仕切り・調理台作り(3年) <p>等の木工具を使った活動</p> <p>(大人の道具使用、ダイナミックな活動 ペンキぬり等の遊びがある、目的意識)</p> <ul style="list-style-type: none">・エプロン、ランチマット作り(1・2年)・トレー作り(3年) <p>(自分の物を作る、道具使用、素材)</p>	<p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> 	<ul style="list-style-type: none">・導入・材木運び・炊飯場作り・当日	<ul style="list-style-type: none">・調理・道具作り等の準備・調理・道具作り等の準備・調理・道具作り等の準備
7月 臨海学校 (43時間)	<p>日程の中に「砂の造型」「キャンプファイヤーの出し物」等、学習成果発表の含まれている。臨海学校に参加するために、みんなで出し物の練習をしたり、砂で造形活動をしたり、キャンプファイヤーの準備のまき作りをした。当日は、その成果を発表したり、海辺で思いきり遊んだりした。</p> 	<ul style="list-style-type: none">・名札作り(1年)、日程作り(2年)・プログラム作り(3年)——全体準備 <p>(目的意識、みんなに喜ばれる、役立つ)</p> <ul style="list-style-type: none">・キャンプファイヤーのまきづくり(合同) <p>(目的意識、木を折る活動の楽しさ、道具使用)</p> <ul style="list-style-type: none">・砂の造型、砂場作り(クラス、合同) <p>(砂遊びの楽しさ自由さ、活動のダイナミックさ、道具使用、目的意識)</p>	<ul style="list-style-type: none">・導入・砂場作り・プール学習	<ul style="list-style-type: none">・出し物・名札作り	<ul style="list-style-type: none">・出し物・日程表作り <ul style="list-style-type: none">・出し物・日程表作り・宿泊学習・外食・ミニキャンプファイヤー
9月 運動会 (30時間)	 <p>学校の運動会、東部地区心障児学級連合運動会に向けて、みんなで種目練習をしたり、運動会を盛り上げる道具を作ったり、運動会の準備活動に参加したりした。当日は、応援用看板が会場でひととき人目をひく中で、力いっぱい演技をした。</p>	<p>種目練習(合同・A、Bチーム対抗)</p> <p>(競争、得点化、1回ずつタイムを記録し発表して賞賛)</p> <p>看板作り(合同・チーム毎)</p> <p>(競争とチーム意識、大型看板のダイナミックさ、ペンキぬりの自由さ、大人の道具使用、目的意識)</p> <p>まき作り(合同・チーム)</p> <p>(チーム意識、まき作りの楽しさ、目的意識、目標量)</p> 	<ul style="list-style-type: none">・導入・種目練習とまき作り <p>(赤・黄・緑の異質集団)</p>	<ul style="list-style-type: none">・標識、ボンボン作り	<ul style="list-style-type: none">・はちまきの洗濯とアイロンかけ・ボンボン作り・旗作り

以上、遊び的労働を重視した5つの単元の実践の概要を述べた。この中で、「集団活動の中での個への対応の仕方」といった授業づくりの観点を中心に、分担による参加、同一教材に異課題で参加、複数の教材で一つの目的に向けて参加といった授業方法の事例について、「野外炊飯」「臨海学校」「運動会」の単元から述べる。

(2) 野外炊飯における授業づくり実践例

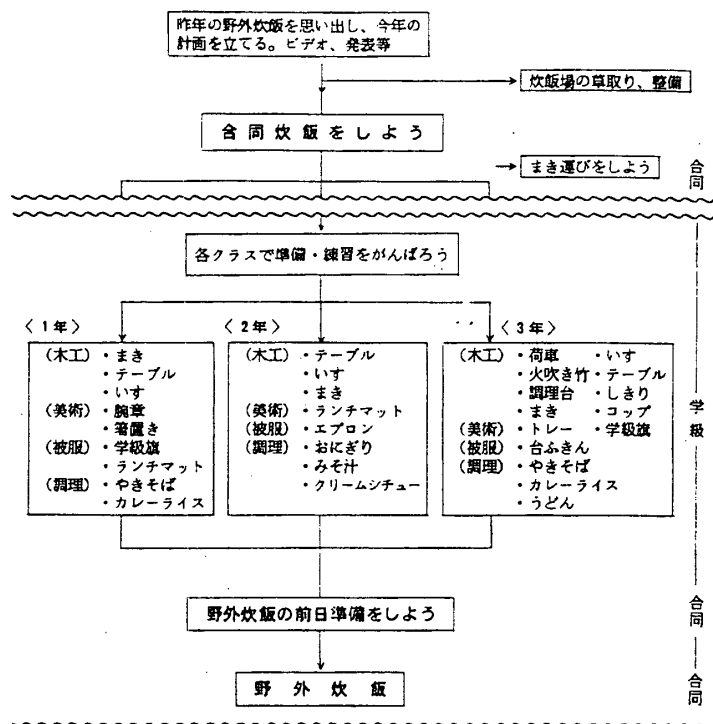
① 分担作業を取り入れた実践例

——シチューづくり（２年）——

a 分担作業を取り入れた意図について

役割分担を生徒達に持たせる事は、任せられた仕事を確実に果たすという責任感を養い、さらに一人ひとりの分担作業が集結して一つの大きな作業を成す満足感をも味わわせる事につながる。また、自分の仕事を繰り返し練習する事により、徹底した技能の習熟が図れる。そして、指示されたり援助されたりしなくても、個に応じた活動で、全員が自分なりの見通しと自信を持って活動できるのではないかと考えた。

【図12】野外炊飯の学習の流れ



b 題材観

野外炊飯当日のメニューは、話し合いの結果、御飯とクリームシチューに決まった。この調理活動には、火おこし、米とぎ、野菜洗い、野菜切り等、様々な仕事が含まれており、個に応じた活動が与えやすく分担作業をさせるのに適した題材であると考えた。当日までに練習を積み、分担作業の流れを徹底して身につけさせたい。そして、火おこしから後片づけまで、自分たちの手でやり遂げられるという自信を持って当日の活動に臨ませたいと考えた。

c 実践の概要

＜指導形態＞……分担作業を取り入れるが、全員そろっての活動や確認の場も設ける。調理活動の度に、分担表を壁に貼り、分担の意識づけと徹底を図る。


R 男	S 男	N 子	U 子	R 子	E 子
材 料 準 備 ・ か ま ど づ く り					
火おこし		米とぎ		野菜洗い	
飯盒を火にかける		肉切り	じゃがいも切り	にんじん切り	玉ねぎ切り
な べ に 具 を 入 れ る					
飯盒を裏返す		炊飯場の片付けをする			
シ チ ュ ー を 仕 上 げ る					
火の始末		御飯入れ	シチュー入れ	シチュー運び	御飯運び
会 食					
自 分 の 食 器 を 洗 う					
生ゴミの始末	なべ、飯盒洗いと片付け		ボール洗いと片付け	しゃくし、しゃもじ洗いと片付け	
全員で炊飯場がきれいになったか確認					



<指導計画（調理活動）>

第1時	合同炊飯をしよう（やきそば）	2時間
第2時	ミニ炊飯をしよう（おにぎり、みそ汁）	2時間
第3時	ミニ炊飯をしよう（クリームシチュー、御飯）	4時間
第4時	ミニ炊飯をしよう（クリームシチュー、御飯）	本時 2時間

d 本時の展開と生徒の様子

学習活動	手だて	生徒の様子	
1. 必要な用具・材料を持って炊飯場に集合する	1. 分担表を壁に貼り、自分の分担を確認させる。	〈火の当番グループ〉 R男・S男	〈野菜準備グループ〉 N子・U子・R子・E子
2. かまどづくりをする。	2. かまどの大きさやブロックの数について、R男、N子に考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> • エプロン、炊飯セットを持ち寄り、自分の分担作業を確認する。（全員） • まきを教室から何度も運ぶ。（R男・S男） 	<ul style="list-style-type: none"> • クリームシチューの材料を運ぶ。（R子） • 食器、まな板、なべ等の用具を数え、運んでくる。（N子・U子）
3. クリームシチューと御飯を作る。	3. できるだけ指示を与えず、自分の分担を考えて行動するのを待つ。 自分の分担ができたなら、友達の手伝いをさせる。 見通しや工夫のある活動が見られたら、賞賛する。	<ul style="list-style-type: none"> • 両手で、ブロックを胸でかかえるようにして運ぶ。（N子・U子） • 先生といっしょに、ゆっくりブロックを運ぶ。（R子・E子） • ブロックを1つずつ運んでいたが、途中で一輪車を使う事に気づく。（R男） • R男を見て、すぐに走って一輪車を取りにいく。（S男） • 1枚の新聞紙をほわっと丸めて上手におく。細い木が少ないので運びにいく。（R男） • マッチで火を進んでつける。風が強いので自分の体でさえぎるうと工夫する。（S男） 	<ul style="list-style-type: none"> • 米を両手でこすり合わせるようにして丁寧に洗う。「次は、何をするの」と声かけされ、自分で分担表を確認し、「肉……肉を切る」と言って作業を始める。（N子） • 慣れた様子で米とぎができるようになり、水を流す時にも米がこぼれないように手で受けていた。じゃがいもを同じくらいの大きさにそろえてきれいに切る。（U子） • 水に当てると感じる感じが、野菜を洗い、テーブルへ運ぶ。にんじんを皮むき器でむいてから、ナイフで切る。ゆっくり、こつこつ作業を進める。（R子） • 先生に皮をむいてもらった玉ねぎをナイフで切る。ウーウーとうれしそうな声が出る。（E子）
			
		<ul style="list-style-type: none"> • 飯盒を火にかける。炊く途中で様子を見る時は、棒で押さえて音を確認していた。（S男） • なべのまわりに集まり、一人ひとりが切った肉や野菜を入れかきまぜる。（全員） • 御飯を炊き上げる。（R男・S男） • 煮えるまでに炊飯場の片付けをする。（全員） • みんなが少しずつルーを入れ、シチューの仕上げをする。（全員） 	

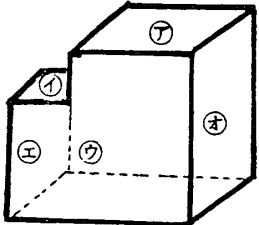


e 題材を終えて

生徒達は、自分の分担作業を知り、何度も繰り返す中で、早く手際のよい作業ができるようになっていった。作業に見通しを持つ事が難しいE子やR子も、ほとんど指示がなくても、自分の分担の野菜を洗い、ナイフでこつこつ切れるようになった。未経験による自信のなさが目立つR男も、回を重ねる毎に、火のおこし方、まきの置き方等が上手になり自信を持って動けるようになった。S男、N子、U子も分担表をよく意識し、さっさと自分の分担をすませ友達の手伝いまでできるようになっていった。そして、野外炊飯当日は、他のどの学年よりも早く、クリームシチューとサラダを作り上げた。分担作業の導入は効果的な指導法の一つだと感じた。

② どの子にも同じ活動を体験させた実践例 ——調理台づくり（3年）——

調理台作りは、校舎の片すみに放置されていた調理台を見つけ出し、皆で補修してきれいに作り直そうという題材である。この授業は、作業時間の始めから終わりまで同時に全員が活動することは難しいかもしれないが、「8人の子、どの子にも一時間の授業の中のどの活動にも一度は必ずたずさわらせよう」という意図をもって取り組んだ。その理由は、

- ・野外炊飯では、3年生としての卒業記念になる作品を作ろう、という意図を持っていたこと。
- ・能力的に低い子でも、友達の中で見よう見まねで模倣していくうちに、別課題で取り組む学習よりもやろうとする意欲がより強く持て、それが技能にもつながっていくこと。
- ・友達同士助け合う中で、協力といった姿勢も生まれてくること等である。

学 習 活 動	手立て、個への配慮	生 徒 の 様 子
<p>1. 調理台を作ることを知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・異質3グループに分ける。 ・ふだんの生活のペアを利用する。 (T男—H男)(O子—A子) (U男—M男)(K子—T子) ・分担場所も生徒の実態に合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T男・H男・U男・①1——面①② M男・O子・A子・①2——面②③ K子・T子・①3——面③ ・自分たちのグループが早く仕上げようと張り切っていた。(①は教師)。
<p>2. 調理台作りをする。</p> <p>(1)角材を切って支柱を作る。</p> <p>(2)板を金づちで打ちつける。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・鋸の使い方を身につけつつあるT男、A子、K子に主に切らせ(①が補助)、同グループの子が木を支える、手を持って手伝う。 ・釘を打つ箇所に予め印をつける。 ・金づちが一人で使えない子は①が手を持つ、まっすぐ打てない子は釘を支えてやる、釘が打ち込めない子は少し打ち込んおいてやる。一人でできる子は、自分のペースでどんどんさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯をくいしばるようにして鋸を両手で持ってひいていた。(K子) ・友達が切る木を押さえて援助(M男) ・じっと自分の出番を待った。(T子) ・初めはおそろおそろ釘を打っていたが、友達の様子を見て自分もがんがん力を入れて打ち出した。(U男) ・①に手をそえてもらって金づちを使う。途中少し一人で両手打ちをしていた。(T男) ・印を見ながらどんどん打っていった。(T子)
<p>(3)ペンキぬりをする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・8人が一斉に作業できるよう、ぬる場所の分担をする。 ・A子、K子はすわってぬらせる。 ・教師も生徒の一人として参加し、ぬりながら不十分な箇所を指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手も服も白く染めてペンキを何度も重ねぬりしていた。(A子、O子) ・励ましを受けて、ペンキをたっぷりつけて黙々とぬった。(H男) ・「ウー」と集中の声を出しながらすみの方まで丁寧なぬった。(U男) ・全員がはけを持ち、一つの調理台を囲んで一斉にペンキぬりをした。

出来上がると、一列に並んでバンザイをしたり、三三七拍子をしたりして、調理台が完成したことを喜び合った。のこぎりで切る、金づちで打つといった作業は、援助の仕方の工夫と経験の繰り返しでその子なりに喜んで取り組み出すし、その子なりに進歩していくと言える。「できないからさせない」というのではなく、実態に合った援助をしながら、どの子にもいろいろな経験をさせて良かったと考える。

③ 同一の教材に複数の課題で向かった実践例 ——台ふきん作り（3年）——

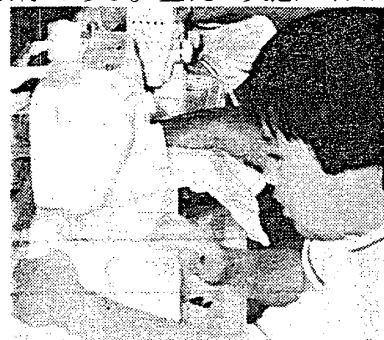
台ふきんは、昨年の野外炊飯の時に台の上が汚れて困ったという経験から、生徒たちの中から制作したい物として出てきた題材であり、本単元では唯一の被服教材である。生徒の実態に合わせ、課題を3つの段階に分けて取り組ませた。

④課題（4人）——ミシンで周囲を縫い、中は手縫い

⑤課題（1人）——まっすぐ手縫い（端を仮止めしておく）

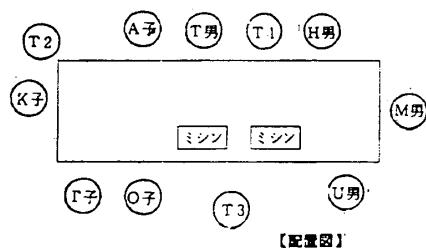
⑥課題（3人）——ひも通しの要領で糸のついた針を穴に通していく（縫う量、模様は個による。）

④⑤—タオル地・長針 ⑥—日本手ぬぐい・毛糸針使用



課題	生徒	手立て・個への配慮	生徒の様子
④	M男	<ul style="list-style-type: none"> ミシン縫いは必要に応じ布を押さえたり動かしたりする。 手縫いは印を線でつけ、すくい縫いをさせる。 玉止めに挑戦させ、一人でもできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの扱いに慣れておらず心配そうだったが補助してもらって何とか縫えた。 玉止めはずい分時間がかかったができた。
	U男	<ul style="list-style-type: none"> ミシン縫いは自由にさせるが、四つ角は補助する。 手縫いは印を線でつけ、一針ずつ縫わせる。 縫う箇所をその都度指示し、線からそれでも注意しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 手慣れた様子でミシンを一人で使用した。 常に縫う箇所の指示をしてもらいながらゆっくり一針ずつ縫っていた。
	O子	<ul style="list-style-type: none"> ミシン縫いは布を押さえながら縫いやすくする。 手縫いは印を線でつけ、すくい縫いをさせる。 玉結びを示範し、挑戦させる。玉止めは一人でさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの縫い終わりを止められなかった。 玉結びは「私えらいの」とやりたがらなかったが、補助を受けて何とかやれた。
	T子	<ul style="list-style-type: none"> ミシン縫いは、縫い始めと縫い終わりを補助する。 手縫いは印を線でつけ、すくい縫いをさせる。 糸通し、玉結び、玉止めを全て自分でさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 縫い始めを失敗したがやり直し、あとは一人でミシンで縫えた。 手縫いも最後まで頑張って仕上げた。
⑤	H男	<ul style="list-style-type: none"> 印は点でつけ、一針ずつまっすぐ縫わせる。 時々休けいをとらせ、励まして再び取り組ませる。 針で人を傷つけないよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2～3回机をたたいたが注意されてやめた。 指さされた所に針がさし込めた。「できました」と自分で報告できた。
⑥	T男	<ul style="list-style-type: none"> 印にはわかりやすいように穴をあけ、針を通しやすくする。 針と一緒にさし、裏返してやり、自分で針を引き抜かせる。 針を口の中に入れないよう配慮する。声かけをして励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> 指さしと声かけをされ、針を持つ手を支えてもらってさし込んだ。 不機嫌になることはなかった。
	K子	<ul style="list-style-type: none"> 印には穴をあけ、布は刺しゅう枠にはめておく。 興味のもてる模様（花）にする。 刺す穴をその都度さし示す。裏返して自分で引き抜かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指さして針を穴にさし、補助をうけて引き抜いた。体調があまり良くなく、ぼんやりしていたが、作業の手を休めなかった。
	A子	<ul style="list-style-type: none"> 印には大きく穴をあけ○印をしておく。刺しゅう枠使用。 興味のもてる模様（ねこ）にし、作業量は少なめにする。 指さしと声かけで視線を合わせさせる。針は⑦が引き抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> 穴に視線がいかず、指さしてもよそを向いていた。ほとんど補助で仕上げた。 ねこの模様を喜び、ふきんを持ち帰っていた。

一応3つには分けたが、8人分8通りの課題と手立てを考えて取り組んだ事例である。事前の準備が大変である上、やり方がわかるまで8通りの指導がいる等大変だが、やり方が分ると能力にマッチしているため、とても興味を持ち、喜んで取り組めた。




④ 同一の目的に向かって複数の方法や課題を取り入れた実践例

——お客様を迎えるための会場づくりをしよう（3年）——

野外炊飯学習の発展として、“初任研の先生を迎え、中庭でカレーうどん作りをしよう”という学習を行った。本時は、明日お客様を迎えるための準備（会場づくり）をする。学部研究授業を兼ね、たくさんの先生方に見てもらった授業でもある。前半の全員での運び学習と、後半の分担作業でのセッティングに分かれる。

⑦ 前半——運び学習（複数の方法での取り組み）

学 習 活 動	生 徒 の 様 子	手立て・個への配慮
1. 炊飯場作りの段どりを知る。 ・グループ分け 2. 薪、調理台運びをする。 （木工室前） ↓ （中庭）	⑦薪、金網——K子・A子・T子 ①調理台(大)—T男・H男・U男 ②調理台(小)——M男・O子 ・M男・U男を先頭に皆が走って木工室前へ行った。 ⑦ひものついた荷車をすごい勢いで引っぱっていた。(K子) ①T男に声かけしながら調理台を押して運んだ。(U男) ②「よいしょ、よいしょ」と重い調理台を持ち上げて運んだ。(O子)	 <ul style="list-style-type: none"> ●セッティングの完成図 ●段どり表の明示。 ●ベアを利用。 ⑦補助具として荷車使用 K子・A子のためひもを2本つけておく。 ①キャスター付調理台。 段差には板をわたす ②力をつけたいO子にさせ、励ます。

① 後半——分担作業＜セッティング＞（複数の課題での取り組み）

男子はテーブル運びなど力仕事を、女子はもてなしの準備をというふうに分担作業を行った。

Aグループ（T男・H男・U男・M男）	Bグループ（K子・O子・A子）	Cグループ（T子）	
<ul style="list-style-type: none"> ●テーブルの運搬 〔T男とH男、U男とM男をベアにする〕 ●パラソルの支柱 パラソルの運搬と組み立て 〔補助、声かけ、ヒント〕 ●椅子、ついたてのぼり、旗のセッティング 〔励まし、ヒント、賞賛、競争意識〕 	<ul style="list-style-type: none"> ●H男は欠席。 ●声かけと指さしでテーブルの方向を変えながら転がして運んだ。（T男） ●先を争うように走って取りに行き、①の指示や友達のまねをしてセッティングしていた。（U男） ●す早く行動できた。（M男） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦はしの袋にスタンプ（K子） 〔中3のマークのスタンプの工夫〕 ④竹ばしを2本ずつ束ねて袋に入れる（O子） 〔はしを固定する補助具、モール〕 ②はしをはし立てに入れる（A子） 〔2点間移動、賞賛〕 	<ul style="list-style-type: none"> ●かまど作り ●トレイ・コップそろえ（15個ずつ） ●ジュースをつぐ 〔段どり表をもたせる、指示を控える〕 ●30個のレンガで2つのかまど作りに時間がかかりすぎて仕事が2つしかできなかった。 ●段どり表を持つことを喜んでた。

暑さ、時間的な制約、そして、参観者が多数といった無理な条件がそろった中での授業であった。個の発達段階や課題にそった活動や教材、教具を工夫して臨んだが、後半の女子の動きが今一つであった。しかし、男子の目を見はるような活発な動きもあり、個や性差を生かした指導の工夫だったと考える。

(3) 臨海学校に於ける実践

・単元の概要

中学部では毎年臨海学校を実施し、砂浜、海といった雄大な自然を相手に、水泳、キャンプファイヤー、ダンス等色々な活動をする。

この単元の中、授業作りを展開した例として「キャンプファイヤーに使う薪を作ろう」題材で、学部集団で、特に、等質グループ編成による個別の配慮をした授業を取り上げる。

① 学部を等質に分ける実践例 一薪作りー

薪作りは、自分の足や手を使って、「折る」、鋸や斧等を使って「切る」、「割る」等の活動や、手でもって「運ぶ」、一輪車やキャスター等を使って「移動させる」等の活動があり、

身体を直接的、にを使って、物に変化を与えることができる「面白さ」や「楽しさ」がある。

また、能力に応じた取り組みができ、能力別にグループを分け、能力の低い子に対して手厚い配慮が、しやすい。

a 事前研究会

事前研究会では、右図の様な学習過程（略案）を考え、「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」を育てることが出来る授業かどうか、学部全教官が、思い思いの意見を出し合った。問題になった点を分類すると、下記の様に5点にまとめられる。

- ・グループ分け
- ・競争か協力が
- ・自分のやり方か、量産方法を知らせるか
- ・何に対して、生徒達は喜びを感じるのか
- ・量か取り組みの姿勢か

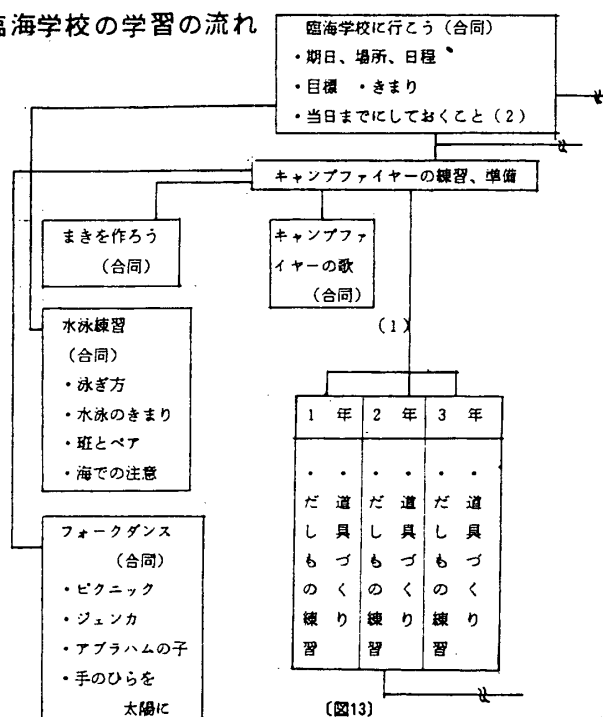
以下、「グループ分け」と「個別配慮・技能」に

ついて、主な意見を載せる。（破線は授業者の最初の意見。）

ア グループ分けについて

- ・ある程度目的意識と競争意識に結び付けられる生徒達に、教師との競争、大量な薪の生産、簡便な方法を知るという点で力を発揮させたい。
- ・もう一方のグループは、「教師と力を合わせて薪を切る、運ぶ」等、教師が頑張って成り立つもので、能力別に分けて、能力の低い子に手厚く、特徴的に対応してみたい。

〔図13〕臨海学校の学習の流れ



学 習 活 動		指導上の意図・留意点
1. 集合、本時の仕事をを知る。 2. 2つのグループに分かれて、薪作りの競争をする。 (一人平均30本)		2. グループ分けの意図 ・Bグループに先生が入る。このことによって、実際は先生がAグループの競争になる。 ・先生と生徒の競争で「ようし」という気で競えさせる。 ・Aグループは、先生を中心に、できるだけ自分の力で、自分なりに20分間取り組みさせてみたい。 ・Bグループは、先生と一緒に自分の好きな方法で、マイペースで取り組みさせる。
Aグループ Y子、M子、R男 S男、N子、U子 T男、H男、M男 U男、K子、O子 T子 前島先生	Bグループ K男、E子 R子、A子 田口先生 白水先生 八木先生 日田先生	
3. 薪が残っているのを見る。 あと5分でやり遂げる。 4. 完成を祝いダンスをする。		3. 危機場面に追い込むことによってぎりぎり一杯の力を発揮するだろう。

- 人数に差が有り過ぎてAグループの方がかえって危険であり、大変ではないか。
- 生徒達と教師を競争させる意図はよくわかるが、
 - ・ Aグループに教師の細かな配慮が出来るにくい。
 - ・ グループの雰囲気は全然違い、本当にAグループの生徒を盛り上げられるか。
 - ・ 本当にこのような極端な能力別のグループの方が意欲がわくのだろうか。
 - ・ 異質の2グループがオーソドックスだと思うし、中学部の段階では適当だ。

イ 個別配慮・技能について

・ 生徒一人ひとりに思いがあるだろうから、「どうしても、この方法でしたい」という生徒には無理強いするつもりはないが、薪は燃えて無くなってしまうものである。しかも、キャンプファイヤーには沢山の薪がいる。そんな時の薪の作り方を経験させたい。

- 木材に切れ目を入れて切り易くしたり、足で踏めば折れるような陰の援助をしっかりとすることもわかる。しかし、それで、本当に生徒達にとって「楽しかった」という授業にはなるだろうか、「一本でもいいから、じっくりと自分の力でやり遂げさせる」という今までの取り組みと余りにも違いがある。
- 鋸をじっくり使い、一本切り落とすことが最大の喜びである子には、目標は達成できないかも知れないが、それを認めてやって欲しい。
- 量産方法による木の切り方と、木工による木の切り方の違いに気付く子が何人いるだろうか。
 - ・ 量産を教える段階なのか。失うものがあるのではないか。
 - ・ とにかく、どんな方法でもよい。自分達に出来る方法で、少しでも、ゆっくりでも、薪作りに取り組めたらよいという段階ではないか。

その他、多くの意見を受け、指導案を次のように改定し、実践した。

b 当日の様子

当日の様子を指導案の主な学習活動にそて併記すると以下のような表になる。

主 な 学 習 活 動				生 徒 の 様 子		
1. 先生の話聞く				赤 チーム	黄 チーム	緑 チーム
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのグループに分かれること ・ 20分間で全部薪にすること ・ 出来た薪は井形枠に入れること ・ 割り当て分が早く無くなった方が勝ち 				1. 「ようし」「はい」の声がよく出る。場所移動の指示で、さっと鋸を取りに行き、活動場所に移動する。「エイエイオー!」のかけ声。 2. 何回も薪の山と活動場所とを往復し、顔を真っ赤にして、鋸を引く。途中で、足を踏んで切ったり、手でねじり出す。音楽により、動作が早くなり、終わ	1. 返事は少ないが、静かに聞いている。場所移動の指示で、真っ先に鋸をとったり、補助具を確保し、活動場所に移動。 2. 補助具を使う者、ブロックを使って台にする者がいる。周りの一生懸命の姿に徐々に無口になって、頑張ります。音楽に関しては、余り意識せず、黙々と	1. 先生のおとなしく聞いている。鉢巻を巻いてもらい嬉しそうにする。「頑張ろうね」の声かけに「うん」とうなづく。 2. 先生と一緒に鋸を引いたり、足で踏むところを指示してもらって折ったりする。切れた時や、折れた時に、「上手」「やった」の声が出る。時々、活動
赤 チーム	黄 チーム	緑 チーム				
U男、M男 T子、H男 S男 前島先生	O子、T男 R男、U子 R子、N子 M子、Y子 田口先生 岸田先生	A子、K子 E子、K男 八木先生 白田先生 白水先生 出脇先生				

2. 薪作りに取りかかる ・自分の好きな道具を使って薪を作る。 ・音楽(20分)が終わると同時にやめる。 ・薪が残っているチームがあれば、全員で5分間だけ協力して薪を作る。	ると同時に全部の山を薪にする。「バンザイ」の声。緑チームが残ってしまったのを見て、「やります」と言い出す。	自分の作業を続ける。赤チームの頑張りに引っ張られる形で、緑チームの薪作りを手伝う。	場所を離れようとするが、声かけにより作業を続ける。「おしまい」の指示で残念そうにする。
3. 薪を囲んで、フォークダンスを踊る。			

c 授業研究会での主な話し合い

ア グループ分けについて

グループ分けについては、賛否両論があった。

- ・全員が一つのものに向かって学習をしていく中で、一人ひとりの技能的なものの高まり、できることが増えていくということは、指導者と生徒の分け方、グループの組み方にかかっていると思う。細かいところの観察ができ、落としが少ないのではないか。
- ・能力の低い生徒達は、1時間の中で活動させきることができない面があり、(教師が)できる子に目が向いて、低い子はぼやとしてしまう時間が多くなる。その点、今回のグループ分けには成功している。
- ・高等部では、能力の低い子10人に一人の指導者で、印刷をしているが、ものすごく伸びが見られる。逆に、低い生徒も、自分達が主役になれるグループを作ると全然意識が違って、できることがすごい。
- ・社会の組立は、異質グループの方が実態にあっているのではないか。能力差があることによって、分業という形が成り立つ。だから薪を切る人、集める人、運ぶ人といった共同作業ができる。そこで、社会的な関わりができ、成長、発達が見られる。

イ 競争か協力か

- ・出来上がった薪の山を比べるという方法だと、最初から最後まで競争で、協力という形を取り入れる場面がない。が、今回は、材料の木材はなくなっていき、作った薪が一つの井形に盛り上げられていくところで、(材料の木材をどのグループが早く無くすかという時間的競争はあるが、)出来た薪については、一箇所に集めて全体の目的のために生かすという形での協力がある。
- ・どこかのグループの材料が残るようにしておいて、そのグループへ手伝いに行くといった所など、競争を取り入れていくが、最終的には競争原理を強調するのではなく、協力を強調していく、協力のための競争である。

②考察

今回の「キャンプファイヤーの薪作り」という題材に於いて、能力別のグループ分けは、教師の個に対する配慮、特に能力の低い子(グループ)に対する、配慮、能力の高い子の活動場面の保障、中学部生徒の全体の技能到達度からみて、今回の場合、適切であったと考える。また、能力の高い子が、低い子の分を分担するという光景が自然に出てきたのも特筆すべき大切な姿であろう。もちろん、生徒の目的意識を高めるための、各クラスの担任の盛り上げがあったことも忘れてはならない。

(4) 運動会における授業づくり実践例

① 反復練習を大切にした授業の展開

〔図14〕運動会の流れ

——「みんな働き者」の実践——

・題材の意義と指導法について

野外炊飯を皮切りに、薪作りと一輪車の操作の学習はどの単位にもくり返し登場し、子どもたちはこれ等の題材に親しみと自信を持っている。この種目はこの題材に運動会という事でスピードを加えたもので、指示された薪の束を一輪車に積み込んでゴールに力走するものである。

反復練習がこの教育に於いて重要な指導法であることは言うまでもない。今回はこの反復練習によって子どもたちがど

う工夫をしながら変容していくのか、反復練習への効果的な手だては何かを探ってみようとした。

・学習展開（当日も含め6回の取り組みを一つにまとめてみた）

学 習 活 動	手だて・留意点	生徒のようす（学習活動2にかかわるものを中心に）
1. スタート	○個に応じた束の数	○全で一人でやりとげ、ゴールに走り込めだした（K男）
2. 指示された数の薪の束を一輪車につむ。	○個に応じて対応。子どもの今の姿と次への発展への見極めが重要なポイントになる。	○時々一輪車のバランスを調節してもらえば一人で運べだした（A子） ○薪を積むことが分かってきて、自分でさっさと薪を取りに行きだした（A子） ○一輪車を薪の近くに持って行けば良い事に気づき、記録がアップした（M子） ○薪を一輪車に投げ入れることに気づき、記録がアップした（U男） ○一度に二束運べば速いことに気づき、記録がアップした（S男）
3. ゴールに向けて走る。	〔先生と一緒に先生のまねで先生の指示でひとりで工夫して〕	○一度に二束運ぶことをまねて、記録がアップした（M男） ○全く同じ方法で黙々と取り組み一回毎にタイムアップした（R子） ○積み込む束数（3）が自信を持ち数えられだした（H男）
4. 評価を聞く	○何がどう良かったか納得させて賞める。	○勝つ喜びが分かりだした（U子）



・考察……効果の表われてくる姿は子どもによって異なるが、一人ひとりがその子なりに示す変容の姿はすばらしい。反復練習、賞賛といった極く当たり前の指導法や指導の手だてをもっと重視して取り入れる事は、単に技能向上という面だけでなく、意欲の面からも大切である。

(5) 生活単元学習の授業展開の中で見られたからだづくりにつながる子どもの姿

成長・発達、繰り返しの効果による部分がもちろん多くあると思うが、教師集団の授業づくりへの思い入れを背景に、子どもたちはからだづくりにつながる「楽しんで力いっぱい…」の姿をたくさん見せてくれた。次の表はその中でも個人変容として著しいものをまとめたものである。

・各単元に見られた、変容の著しい生徒たちの姿

	意欲・積極性・見通し	やる気・集中力・持続力	道具操作・身のこなし
野外炊飯	<ul style="list-style-type: none"> 調理の話聞いた後、あっという間に野外炊飯場へ移動していた(A子) 自分たちで作った荷車に乗りたくて側を離れず、みんなに乘せてもらって喜び、自分も引いた(K子) 友だちの働く姿を見て、する事が分ると自分も取り組みだした(R子) 指示される前に自分から金づちを持って来て釘を打とうとした(O子) ミシンで早くエプロンがぬいたくて何度も先生に要求した(N子) 必要な道具等ちょっとしたヒントですぐ取りに行った(S男) 	<ul style="list-style-type: none"> 口では「モーイイ」と言いながら、完成するまでペンキをぬった(A子) 自分でかまどを組み立てようと、約20分間、あれこれ工夫して完成させ途中で投げ出さなかった(U男) する事が分からないうと「僕は何をするか」と聞いて取り組んだ(H男) 丸太が切れるまで何度も何度も休みながらがんばった。(H男) 	<ul style="list-style-type: none"> 丸テーブルを転がしながら方向転換をしたり、スピード調節をしたりできだした(T男) 重い物の運搬等、軽々としだした。一度に2つ持ったりする(U男、M男) 釘の打ち方、この使い方が昨年に比べて上達した(H男) ミシンの使い方が上手になり、糸通しも一人のできる(T子)
臨海学校	<ul style="list-style-type: none"> 砂の造形が楽しかった事、次はかめが作りたい事を日記に書く(R男) 模倣が指示がないと取り組みなかった造形活動に自分なりにどんどん取り組み組めた。(N子) 出し物でなりたて役を自分からすすんで発表した(O子) 臨海学校の生活に見通しを持って取り組めた。 来年は二泊したいと言う(M子) 	<ul style="list-style-type: none"> 砂場の整備で、草取り、一輪車で運ぶ、草の根の堀り起こしと約40分間集中して作業に取り組んだ(U男) 砂の造形で、先生も負ける集中でくじらを完成させた(S男) あれこれと気が散っていたが、今回は一つの穴を掘り続けることができた(E子) 1本の薪を切り落すまで黙々と切り続けた(R子) 	<ul style="list-style-type: none"> 文字のなぞりがきが十分正確になってきて、喜んでなぞり書きをするようになった(Y子) 友だちにほとんど遅れないで歩き、外食に行けた(K男) 海の中でとうとう顔がつけられた。この事が絵にも泳ぐ表現の変化として表われた(T子) スコップに足をかけて穴を掘ったり、砂を積み上げたりできだした。形への意識も出てきた(R男) 昨年は使えなかったのこが使えだし、最後まで切り落せだした(R子)
運動会	<ul style="list-style-type: none"> 自分のチームが勝つと主張し、口論にまでなりそうだった。 みんながまきを作るのを見て、自分からのこと木を持ってきて切ろうとした(K男) 休憩時間、遊びに出ないで、看板を完成させた(M男) リレーに勝つには、自分の方が選手が良いと申告、競争してみると確かに速かった(T子) 先生の指示もあったが、練習用の一輪車や薪等、すすんで準備をした(U男) 	<ul style="list-style-type: none"> 応援用の看板のライオンの絵を40分かかって黙々と仕上げた(S男とN子) ボンボン作りの作業に、皆と同じように40分とくりくめた。 はちまき30本の責任量を一人で黙々とやりとげた。 集中して走れだしゴールに突進するように走れた。 暑かったが、バニックにもならず2時間の練習に参加した。自分でもがんばったと言う(H男) 	<ul style="list-style-type: none"> まきを同じ長さに切るため、棒切れで簡易なさしを作った(S男) 組み体操の一番下の台になってもくずれなかった(H男) 100メートル競争で昨年より3秒もタイムがちぢまった(M男) ボンボン作りで、ビニールが指先でさげだした(T男)

変容した姿が表われるには個人によって、単元の始めと終り、前単元と本単元、4月当初と比べて、昨年の同単元と比べて等、期間に違いはあるが、する事が分ってさっと移動したり、重い物でもがんばって運ぼうとする等、一步一步、確実に変容している姿を捉える事ができる。

〔3〕 合同体育による実践（サッカー）——意欲を引き出す組み立ての実践例——

中学部では合同体育の時間に、みんなで一緒に楽しく取り組める運動をということでサッカーを行っている。一昨年度はボールをける等の技術的な面に視点をあて、昨年度はゲームを中心に取り組んだ。本年度は個に応じた指導ができるような工夫をしながら、お互いのグループを関わらせ仲間意識を育てる中に、生徒達が意欲を持って楽しく取り組めるものにしようと考え実践した。

(1) サッカーをとり入れた理由

中学部の研究テーマと関わりながら、次のような理由でサッカーをとりあげた。

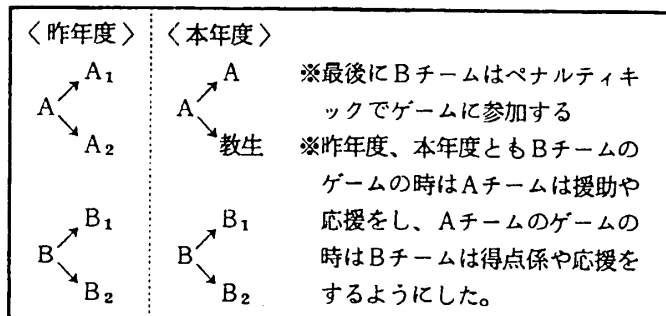
- ① ゲーム中、絶えずボールの動きに対応して動くので生徒達が楽しみながら力いっぱい動ける。
- ② チームプレーであるため、め自分の仲間を意識した動きができる。
- ③ 体力的な面で敏捷性、調整力、瞬発力等の向上につながる。
- ④ ボールの不確実性（はずむ、転がる）を自分でコントロールする楽しさが味わえる。

(2) 単元の組み立ての工夫

昨年度は生徒同士の2チームによる競い合いの中で、ボール操作の技術的な面での向上やゲームの流れを定着させることを目指してきた。本年度は今まで練習してきた成果を試す場として、教育実習期間中を利用し、「教生の先生とサッカーのゲームをしよう」という単元を設定した。教生の先生とのゲームに勝つという目的意識に支えられながら、今まで以上に仲間と力を合わせたり、技能練習に取り組んだり、ゲームの中で自分がもっている力を出しきって参加しようとする姿が期待でき、よりいっそうのサッカーへの意欲的な取り組みを引き出す上で有効な組み立てであると考えた。

(3) 指導形態及び指導計画の工夫

右図のように昨年度はける動作がひとりのできる生徒（Aグループ）、ボールに対する関心が薄くける動作が身につけてない生徒（Bグループ）を、



それぞれ2チームに分け競わせた。本年度はAチームをひとつのチームにし、教生の先生と戦わせた。教生の先生との第1回のゲームで11対0で敗けた結果から、技能練習をやり直しゲームの中で生かせるように練習していき、徐々に点差を少なくし最後のゲームをするという計画を仕組んだ。又、Bグループの生徒もこのゲームに参加できるようペナルティキックの場面をAグループのゲームの中に加えた。具体的には、次のような指導計画を立てて取り組んだ。

指導計画（全11時間） ※ボール操作の指導後は常にゲームをするパターンを繰り返す。

・第一次…試しのゲーム（4）

・第二次…みんなで力を合わせて練習をする（5）

第1時…ボールを思い切りける 第2時…ドリブル 第3～5時 ドリブルシュート

・第三次…教生の先生と最後のゲームをする (1) ・第四次…まとめのゲームをする (1)

教生の先生との最後のゲームまでに、Aグループではボールを単発的にけり合う場面が少なくなり、徐々にドリブルを使って進みシュートをしようとした。又、BグループではAグループの応援や先生の援助を受け、ボールをけったり追いかけたりする場面が多くなってきた。そして、Aチームのゲームにペナルティキックで参加し、うまくシュートが決まると嬉しそうな表情をみせそれを見てAチームが喜ぶという光景が見られだした。この生徒達の意欲の高まりを大切にしながら、教生の先生との最後のゲームを行った。以下にその展開の一部を紹介する。

(4) 学習の様子「教生の先生との最後のゲームをしよう」

学 習 活 動	授業づくりへの手立て	生 徒 の 様 子
1. 準備運動をする	1. 先生が先頭を走ったり、補助が必要な生徒には1対1の対応をする。又、音楽を使用することで生徒達の意欲を盛り上げていく。	1. ひとりで又は先生と一緒に思い切り走り笛の合図で素早く方向変換をしていくことができた。
2. グループ別の練習をする ・ドリブルシュート (Aグループ) ・静止しているボールをける (Bグループ)	2. 運動量を確保し技能の向上を図る為、A、Bの2グループに分ける。Aグループのドリブルシュートは、ドリブルのままゴールへ入れないようにシュート地点に旗を立てる。Bグループの生徒には、好きなボールを選択させたり、ボールに鈴を付けたり、常に視野の中にボールを入れるようにする。	2. 練習を重ねるにつれ声かけされなくても自分でけりやすい位置を見つけ出し、ドリブルからシュートへの動作もできた(Aグループ) ○けろうとする意識はまだ薄い、ボールに付けられた鈴の音に興味を示し、単発的にボールをくれた(Bグループ)
3. 教生の先生を相手にゲームをする。 ・キーパーをつける ・ペナルティキック (Bチームの生徒が参加)	3. 前回のゲームで得点差がかなり縮まったこと、本時が最後のゲームであることを今までのゲームの結果の表を見せ意識づける。教生の先生はゲームをしながら、Aチームに対して励ましの声かけや生徒とボールをとり合う場を意図的に設定する。Aチームのゲーム中に教生の先生が意図的に行った反則の結果、行われるペナルティキックにBチームを参加させ、全員参加の意識を持たせる。	3. 得点差が縮まったこと、最後のゲームであることで生徒の意欲が盛り上がった。 ○教生の先生が意図的に競い合う場を設定しなくても、激しくボールをとりあったりゴールへ思い切りシュートする姿がかなり多く見られた。 ○ペナルティキックでは、Aチームが一生懸命に応援する雰囲気を楽しみ、Bチームの生徒がシュートすることができた。

(5) 単元を終えて 一生徒達の変容と今後の方向一

自分達よりも強い教生の先生を相手にチームを編成し直し、繰り返しの練習をすることで点差が縮まっていく流れの中で、生徒達の意欲は盛り上がっていった。最後のゲームでは、意図的な操作をすることなく、生徒達の実力で勝つことができた。又、Bチームがペナルティキックの場面で雰囲気を楽しみな



からシュートする姿、それをAチームが一生懸命に応援する姿が見られ、みんなが力を合わせてという仲間意識が十分に感じられた。今後も目的意識を持たせ能力別の編成であっても、お互いの関わり持たせた仲間意識を育てながら、サッカーを楽しませていきたい。

[4] 授業づくりに取り組んで——実践の足あとから次につなぐ——

以上、「授業づくり」でめざす授業の展開例を生活単元学習と体育で述べた。この様に授業実践や授業研究会を繰り返す中で、私たちも少しずつ色々な事が分ったり再認識したりする事ができた。それ等について63頁に示す「授業づくりでめざす授業」のポイントから、次の様にまとめた。

(1) 意欲的に取り組み、楽しんで力いっぱいからだを動かす題材とその要因

この事については、64頁の「遊び的労働を重視した生活単元学習の概要」の一覧表の中に「意欲的に取り組んだ題材例とその要因」としてまとめた。遊び的労働を重視した生活単元学習をからだづくりの中心に持ってきた経過から考えて当然の事であるが、目的意識とつながった「作る活動（調理も含む）」「動く活動（具体的活動も含む）」が、意欲的に取り組んだ題材のほとんどを占めている。

(2) 個に応じる、個を生かす、個別化には、いろいろな角度からの対応がある。

① 個人の段階をしっかりと見極め、段階に応じた、段階での特長を生かした対応をする。

次の表は、「楽しんで取り組む、意欲的な姿」を引き出す要因について、個人の意識や教師の対応の仕方が段階によってかなり異なる事を事例的に示したものである。我々は子どもをしっかりと見通し、的確な指示や援助、働きかけができる感覚を常に養う必要がある。

楽しさの要因	自分一人では仲々力の発揮できない段階	見通しを持ち、自分なりにがんばれる段階
食 べ る	・食べる楽しさ ・少し待てば食べられる	・作ったら食べられる ・食べさせてあげる
作 る	・遊びが結果的に作品になる ・作ることで遊ぶ	・使う目的で作る ・後で役立てたり使ったりする
案 材	・砂、水、粘土等で感覚的なレベルの遊びを楽しむ ・結果が多様であり遊びの部分があるもの	・砂、水、粘土等を使って、からだで作り上げる みんなで遊ぶ、力いっぱい投入する、工夫する
道 具	・関心を持つ ・見よう見まねでさばる	・大人の道具が使える ・だんだん上手になる喜び
場 所	・机から離れて ・自然の中で ・広い場所で	・机上学習でも ・現場での実践
競 争	・先生と一緒に ・ほめられて ・はげまされて	・見せ合う ・得点化 ・賞への意欲 ・勝ちたい
見 通 し	・今すぐ ・ちょっと先の事 ・先生の指示で	・予定表を見て ・進捗表 ・量の見通し ・結果の見通し ・ほめられる ・喜ばれる

② 集団の編成や学習参加の方法は特徴的に色々ある。目的によって選択し、明確な意図を持って個を生かす援助をしていく。

71頁に示す「キャンプファイヤー」のための薪作りの実践で報告されている様に、集団の編成や学習参加の方法は、授業づくりの一つの大きな課題であった。

	等 質 グ ル ー プ	異 質 グ ル ー プ
グ ル ー プ の 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・能力別編成 ・各グループに応じた学習量、学習内容、援助の方法で対応できる ・分担、協力、助け合いがグループ間で行われやすい ・教師の配置の工夫によって、重い子どもに1対1の手厚い援助がされやすい ・自然な形で競争や協力体制が取りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な能力の子どもで編成 ・各グループ共同の仕事量、仕事内容、援助の方法 ・グループ内で能力に応じて仕事内容、量で分担ができ助け合いが生じやすい
題 材 例	<ul style="list-style-type: none"> ・木材運搬 ・砂場作り ・キャンプファイヤーの薪づくり ・リレーチーム ・学習発表会の劇 ・サッカーやサーキットのA・Bチーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の赤・黄・緑組 ・連合運動会へのA・Bチーム ・調理 ・テーブル作り ・調理台作り ・大道具作り ・上記以外、学級単位の学習はほとんどここに入る



前頁の表は、集団の特徴とその集団を選んで実践した題材の例を示したものである。次に示すのは学習参加の方法についてまとめた表である。

参加方法の特徴 題材例	ま る ご と の 参 加	部 分 参 加
	<ul style="list-style-type: none"> • どの子にも、援助の仕方や取り組み方法を工夫して、学習場面・内容のすべてを体験させる。啓発経験 • 順番が来るのを待つ時間ロスが心配 • 過介助の危険 	<ul style="list-style-type: none"> • その子の能力や特性に合った部分、特意な部分に取り組む事に専念させる。みんなで一つの活動を完成させる（分担） • 能力を過小評価する危険、未経験の危険
	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のランチマットやエプロン作り • 一人一なべの調理 • 自分のいす作り • 何時間もかけて作る大きな道具づくり（1単位時間が1仕事の場合） • まき作り • 上記以外の個人の物、個人にかかわる物のほとんど 	<ul style="list-style-type: none"> • 調理 • 荷車作り • テーブル作り • 砂の造形 • まき作り • 砂場作り • 炊飯場作り • 劇や出し物 • 上記以外、みんなで一つの物を作る場合のほとんど

集団を等質にするのか異質にするのか、部分的な参加かまるごとの参加か、援助の仕方も加えれば、個に応じる方法は限りなく選択できる。大切なのは、その学習によって何をめざしているかの目的によって集団や参加方法を選択することであり、選択の意図を明確に持ちながら、色々な集団や参加方法を経験させる事である。また、上記の集団や参加方法に例示した題材も、方法を固定化せず、色々検討してみる事が大切である。

③ 同一教材に複数の課題（同一目的に複数の課題）をとり込みやすい題材・教材を選定する。

69頁の3年生の「台ふきん作り」の実践例で報告された様に、目的も教材も同一であるが、個に応じた色々な方法で取り組ませる工夫のできる題材、70頁の3年生の「会場作り」の実践例で報告された様に同一の目的に向かって、個に応じた色々な課題が準備できるような題材を選定することが大切である。

また「遊びの労働」の遊びの意味に、遊び部分（許容される、自由さがある、おおらかさがある）がとり入れやすいといった意味がある。遊ぶ部分の多い教材であるのか、教材の中に遊び部分を見つけ出すのかといった問題はあるが、いずれにしても、感覚遊び的なレベルの活動であっても、それに没頭させながら、しかもその結果が皆のめざしている目的の中の大切な役割りを果たせるような教材を見つけることも重要になってくる。このあたり、教師の教材研究への力量に期待するものが多い。

以上、意欲的に取り組める工夫、個に応じる工夫の2点について、実践した教材からまとめてみた。意欲的に取り組む中で個が生かされるかどうかは、結局、どれについて考えてもそれは、教師の子どもと教材を見つめる力量にかかっている。教師が子どもを見通し、的確な指示・援助・働きかけができるかどうか、臨機応変の配慮がひらめき、小さなステップで課題が投げかけていけるかどうかによって個の生かされ方は異なってくる。その点、本年度、新しくて古い「授業づくり」とい角度から研究に取り組んだ事は、教師一人ひとりが今迄以上に子どもたちをじっくり見つめ、「今、なぜこの子をこのような場や状態に置くのか」を意識しながら授業を展開していこうとする姿勢、子どもの小さな変化や反応を見逃さず意味ある物としてとらえていこうとする姿勢が生まれてきた事等、成果として評価し大切な取り組みであったと考える。